

# 「学び直し」に応える

## —「現職教職員研修講座」等改善会議より—

渡辺 博志\*, 高橋 康彦\*, 大森 俊輔\*

本稿は、教職員の学び直しに応え、より充実した事業を推進するため、本年1月に開催した「現職教職員研修講座等改善会議」での委員（県・市町村教育委員会、小・中校長会、教員代表）からの意見をまとめたものである。学校現場における研修の現状、「現職教職員研修講座」や「ふくしま教育シンクタンク」に対する意見・要望、教員養成に関しての大学への要望等を伺うことが出来た。

学校現場では、教員の年齢構成による同僚性に関わることや教員のニーズと授業力向上でめざすものとの齟齬が問題点としてあげられた。また、研修講座については、研修意欲が触発される、授業のもととなる教育観や指導観、児童生徒観について考える貴重な場となっているという声を聞くことが出来た。

一方で現場のニーズに応えるためにも講座数を増やしてほしいという要望もあり、全学体制で臨むことの必要性を感じた。ふくしま教育シンクタンクについてはこの事業に対する理解が十分でないことが感じられた。

〔キーワード〕 学び直し 観（教育、児童生徒、指導） 共同研究 連携

### 1 はじめに

平成8年に発足した「福島大学教育学部附属教育実践総合センター」が、学部再編に伴い、平成17年、「福島大学総合教育研究センター」となり、現職研修部門が設けられた。実践センター時代から引き続き行ってきたのが「現職教職員研修講座」の実施である。本講座は、学校現場の教育ニーズに、また、先生方の「学び直し」に応えようとして設けられた。

しかし、講座が開かれて7年経過したということ、教員免許更新制が導入され、講座の運営面で考慮する面があること、地域や学校現場等との連携がこれまで以上に必要なことなどから、講座のあり方や現職研修部門の取り組みを見直さなければならない時期に入った。そこで、学校現場の実情を把握し、講座のあり方やふくしま教育シンクタンクの取り組みを検討するため、平成22年1月27日に「現職教職員研修講座等改善会議」を開催した。参加者は、以下の方々である。

福島県教育庁学習指導課主任指導主事	佐藤 秀美
伊達郡桑折町教育委員会教育長	室井 君男
大玉村教育委員会指導主事	安齋 宏之
福島市立福島第三小学校長	渋谷 朗
石川郡玉川村立須釜中学校長	歌川 哲由
いわき市立勿来第三小学校教頭	菅野 輝義
白河市立大信中学校教諭	櫻井 宗成

大学からは、総合教育研究センター長・境野健児教授、教職履修部門長・岡田 努准教授、現職研修部門担当からは3名が出席した。

なお、本改善会議で出された意見や要望等をまとめ

るに当たっては、「学校での研修の現状」「現職教職研修講座について」「ふくしま教育シンクタンクについて」「その他」の四項目に分けて整理をした。

### 2 学校における研修の現状

○ 現場の先生方の研修したい、勉強したいという意欲は高い。しかし、ある教科についての研究を深めたいということに限定されているようだ。それもちらかたというハウツーものを身につけたいという気持ち強い感じがする。自分の希望するもの、必要なところは早く身につけたいし吸収したいと願っている。

ただ、みんなと話し合いを進めながら教科とは何か、基礎基本とは何か、子どもに活用能力を身につけさせるにどうするかなど、自立的に、自分から苦勞して研究を深めたり、教師としての人間的な部分をどのように深めていくかといったことを話し合ったりすることには目を向けていないような気がしてならない。悩みながらも互いに研修を進め、高め合っていくという面があまり見られないのが残念に思える。研修そのものが個人化しているといえるのではないだろうか。

○ 学校評価をはじめとする様々な教育改革が叫ばれているが、各学校の授業が良くならないと、つまり授業の質が良くならない限り、いくらきれいなことを言っても説得力はない。学校評価の究極は授業の質はどうかということになる。そこで、一人ひとりの授業力向上が重要になってくる。

昨年度、大玉村では、大玉村学校経営塾を立ち上げ

\*：福島大学総合教育研究センター現職研修部門

た。管理職の経営力を高めるため、先生方がお金を出し合って毎月1回行った。今年は、学校経営塾の中に管理職の学校経営力向上コースと授業力向上コースを設け、一般の先生方にはワンコインを出してもらいながら講師を呼び、自分たちの学びたいテーマで研究会を進めていこうと計画を立てている。

学びたいという先生方のニーズは高い。しかし、なかなか学校から出かけていくということは大変なので、出前講座的な形で大学の先生方に関わっていただくと先生方のニーズに応えることができるのではないかと期待している。

○ 中学校の場合は、先生方の研修意欲の高まりというものはあまりうかがえないように思える。何か触発される部分があると先生方はやってみたいと思うようだ。しかし、中学校での現実を見ると部活の指導や生徒指導、保護者の対応等で忙しいという阻害要因が数多くあり、そのために自分なりの、あるいは校内での研修を一步先に進めていくことがなかなかできないのが現状だ。どこの学校でも先生方の授業力を高めようということではあるがまだまだである。

○ 現場では、旅費の関係で外に出かけての研修の機会が大幅に減ってきている。いわき市では市の総合教育センターが研修講座を開いてくれているので助かっている。今は、授業力向上講座が各教科ごとに開かれ、数多くの先生方が参加している。

先生方の研修の目的としては、どちらかと言えばハウツー的なもの、すぐ使えるもの、今、悩んでいるものに直結しているものを学びたいと思っている。しかし、授業の根本となることについて真剣に考えようということになると、これは難しい。

今、私は教頭として、授業を核としての話を先生方とすることで、授業のおもしろさや目の前の子どもたちをどうしていけば授業が楽しいと思うようになるのかなどを伝え合っている。このようにしていくことが先生方の目が、子どもに、授業そのものに行き、ひいては学校経営に自分が参画しているという自覚を高めることにつながっていくのではないかと考えている。

○ 中学校に籍があるが、今、大学院で研修している。研究テーマが校内研修をどうするかということの研究を進めているところだ。

現場の様子を見ると、「校内研修は気が重い。」「今日の研修は何分で終わるの?」というような具合で、校内研修に先生方はあまり乗り気でないように見受けられる。アンケート調査などを見ると「自分の授業を見せるのは気が重い。」とか「忙しくてなかなかやっつけられない。」という回答が数多く見られる。

そのような中で、担当教科が異なる中学校では、教科の枠を越えた研修のあり方はどのように進めたらよ

いのかということが大きな課題だ。授業研究を進める場合、教科が違えば、私はその教科は専門でないので遠慮しますということで、授業研究や研修会に遠慮をしてしまう先生もいる。

生徒の学びを見ていくことによって、先生方が共通した視点を持ち、研修を進めていくことが出来るのではないかと考えている。

○ 今は団塊の先生方がいなくなり、ミドルリーダークラス的な先輩の先生方も少なくなりつつある。そこに目標管理制度が導入され、組織マネジメントの考えが取り入れられたりして、先生方が自分たちで共同して学校を作っていく、授業を作り上げていくという意識が薄くなり、縦のラインの中に潜り込んでくるというような傾向があるのではないだろうか。

○ 県教委では、今、第六次福島県総合教育計画を作成しているところだ。その計画の中の三つ目の柱が「豊かな教育環境の形成」ということだ。

県民からのアンケートをとってみると、「本県の教員の指導力について十分向上している、どちらかと言えば向上している」との回答は31.4%。一方、「どちらかと言えば向上していない、全く向上していない」とのきびしい回答を寄せた方は37.6%で、肯定的な意見に対して6ポイント下回っているというのが現状である。これは、教職員の不祥事等のこともあると思われるが、これも見方を変えれば、県民の教員への期待の表れと言うことも出来よう。

「教員の指導力を向上するための取り組みを推進することは重要か?」ということに対しては、どちらかと言えば、というものも含めて、重要だと答えている県民の方が87.7%もいる。

これらのことから、教員だけではなく県民の願いとして教員の指導力向上に向けて真摯に取り組んでいかなければならないと県教委では考えている。

以前、大学の講座に参加していたが、私自身、触発される部分が大きかった。県教育センターの実情を言えば、多くの講座を設けているが、先生方も普通の日には忙しいということで、その講座は夏期休業中に集中する。しかし、これ以上先生方を引き受けることは困難な状態にあるのが現実だ。そのため、希望しても学べない先生方も出てくる。大学の現職教職員研修講座は、それらの先生達の大切な学びの場となっており助かっている。

### 3 現職教職員研修講座について

○ 私は6年連続で本講座を受講している。講座に来る目的は、何とか授業を改善していきたいということ念頭に置いて参加している。この現職教職員研修講座は、誰もが申し込みさえすれば参加できるという良さがあり、そこが良い。

自分が教諭の時には、目の前の子どもたちに授業をどのようにしていけばよいのか等、授業の根本的なことに触れられる研修を受けることができた。話し合いとは、授業とはということについて考えることが出来た。私にとって、本講座は授業の根本的なことを学べる貴重な場だった。現在、いろいろな状況で講座数が少なくなってきたのが残念だ。

○ 先生方の話を聞いてみると、この現職教職員研修講座は人気があるようだ。それは、各職種の先生や学校事務職員の方等の必要に応じた内容の講座や、時代のニーズに応じた講座があり、いろいろな話を聞くことが出来るということからだろう。上からのトップダウンでの研修でないところも新鮮なのかもしれない。

管理職者の方も一般の先生と一緒に研修を受けている方が多くなっているというが良いことだ。受講した先生方が、各地区に戻って講座で得たものを紹介していることもみられるのですばらしい。ただ、ミドルリーダー的な先生が、本講座が開かれていることをあまり知らないでいることもあるので、もっとPRに関して工夫を凝らしてみてもいいだろう。

○ 大学に来てこの研修講座に参加する先生方は、もともと研修意欲が高く、自分なりの課題を持ってなんとかしたいという願いのもとに来ている先生方ばかりだと思う。そうでない先生方の学び直しをどうするかということは大きな課題ととらえている。現場と大学と、共に考えていかなければならない。

教育委員会の中にいる自分の課題としては、学校経営の視点からみて、学校の目標設定やPDSサイクルがうまく回っていないのではないかとという現状がある。各学校では、学校の実情をよく見、とらえて、経営ビジョンなり目標なりを変えていこうという勇氣が乏しいように思える。

実現可能な目標を掲げながら実践をして評価をするという道をつけていくことが大事なと考え、そのような内容の研修講座があればいいと思う。

○ 一般的に、個別受容型の研修が好まれているように思える。そこで民間で行われる研修に出かける先生も多い。そのような人たちをコーディネートしてどう人的なものを学校で組み立てていく力を育てていくか、そして、それを自分たちの学校の底力として変えていこうとするにはどのようにすればよいのかと考えてしまう。そのようなことで、マネージメントの仕方や先生方の指導力・学校力を高めていくための方法や視点、さらには教育観を豊かにするための講座があればよいと思う。そのような講座の設定を考えてほしい。

学校全体の指導力を高め合えるためのキーパーソンとなるような先生対象の講座があればと良いと思う。各学校にそのような先生が少なくなってきたような

気がする。学校全体を、さらには地域全体をまとめる人材を育てていきたいと考えている。

○ 研修を進めていく場合、行政によるもの、自主的な研修、校内での研修といろいろあり、これらの研修により勉強してきたためか、あまり大学を身近には感じていなかった。

しかし、実際に本講座に参加した先生達の話を見ると、普段の自分の考えとは違う視点での話を聞くことが出来て良かったといっている先生が多い。これからは、大学との連携ということを実際に考えていかなければならないと思った。

○ 学校での授業研究の様子を見ると、根本となる授業論や心理学の面を考えての話し合いがなされていないように見受けられる。

そこで、授業の根底をなすものについての専門性を先生方に身につけさせてあげたいと考える。また、先生方の人間力というか人間性がないとその先生自身が大きく伸びないような気がしてならない。大学の講座でそういうものを豊かに学べるものを設けてもらえれば助かる。

○ 4月に現職教職員研修講座の案内が総合教育研究センターから届く。はじめだけ掲示をし、後はしまわれてしまうというのが学校での現状のようだ。いろいろな講座を開く際、その都度、案内を出してもらえればよいと思う。

本講座を受講した先生方の中には、十年教員経験者研修で大学に行って研修を受けた先生から講座の内容についての話を聞き、仲間を誘って受講したという人も多い。このように他の研修等と連携していくことが未受講の先生方に受講するきっかけを与える要因にもつながるだろう。

○ いわき市や郡山市、福島市などには教育センターがあり、指導主事もいるので研修も受けやすいと思うが、他の市町村ではそれが望めない。それを補ってくれるひとつが大学との連携、大学の力だと思う。直接的な指導もさることながら、間接的にこのような方法で研修を進めていったらどうかというような示唆をいただきながら研修を進めていくことができればありがたい。これらのことを踏まえ、大学には積極的な支援を行っていただきたい。

また、講座の内容については、現場の先生方にとって魅力があるテーマや、惹かれるような、研修意欲をくすぐるような講話を数多く聞いてほしい。

○ 今、学校の様子を見ていて個人的に心配をしていることがある。それは、先生方の人的構成を見ると全体的に50代はじめの先生方が多いように見受けられる。この50歳前後の先生が活躍されている学校には活気があり、生き生きとした感じがみなぎっているように思える。

ところが「私たちはもう…」というように、その年

代の先生方が元気のない学校では全体に活気が見られないようだ。この年代の先生達に、いかに積極的に学校経営に参画してもらえるかというようことが大事になってくると思うので、そのための講座があればいいなと思っている。

○ 生徒の学びを成立させる上で最も大切なのが、先生の授業力の問題である。子どもの学びを支えるものとしての先生方の研修は重要だ。以前、県の教育センターに1年間在籍していたが、たくさんの先生方が集まってくる。その先生方は、センターに行くまでは気が重かったが、研修を受けた後では行って良かったと思うようになったと話している。同じように、大学での本講座は、夏に参加してみて、授業の根本に関わる大切な内容のものが開かれており、貴重な研修だと思った。前は大学でこのような研修があるということを知らなかったので、この現職教職員研修講座があることを先生方に是非知ってもらおうよう努めてほしい。

○ 現場の先生方を見ていると、個人の研修、学校での研修にとどまってしまう。そこには、子どもの学びや育ちのつながり、幼稚園・小学校・中学校という連続的な子どもの育ちということまでにはつながっていかないようだ。それぞれの立場の先生方が、幼・小・中をつなぐためには何を勉強しなければならないかということをつかっているのかもしれない。

そのような時に気軽に大学に来て、連携の在り方や発達段階に応じた指導の在り方などを相談できる窓口がこのセンターがあればいいと思ったが、先ほどの説明で「ふくしま教育シンクタンク」があることが分かって良かった。組織作りなどの上でも指導いただければよい。そうすれば自分たちで研修を進めていく時に、自分で、この地域で、何が足りないのかという具体的な課題が見えてくるようになると思う。現場でその課題意識を先生方に持ってもらい、その上で、大学で開かれるこの講座に行こうというようになればすばらしいと思う。

○ 大学と現場がつながりということ考えた場合、一回一回の教育講座と言う形ではなかなか成果が上がるということにはならないだろう。また、先生方が今求めているものにあった講座というのも難しいかもしれない。

昔はどの学校でもベテランの先生が基本的なことを若い先生方に教えてくれたり、授業の検討会でも指導観であるとか児童観・教材観をきちっと伝えたりして、それを研修の中で揉んでいたように思える。しかし、今ではそれが薄れてきたために、そのような基本となることを学び直す機会が失われてしまったような気がする。特別支援関係の研修等にも行くが何でそれが必要なのか、ケースワークの研修は受けるものの、それ

がどうして大事なのかという、学ぶ必要性のようなものを考える機会がない。

出来れば継続した講座、継続しての連携があればよい。そうなれば現場としても「学び直し」が出来、ベテランの先生と若い先生との横のつながりのある有意義な研修を進められるような気がする。

○ 先日、ある小学校で小学校外国語講座が開かれた。小学校からは100人の先生方が参加された。さらにそこには中学校の先生方の姿も数多く見ることができた。

このことから外国語教育に関する先生方のニーズは高いものがあると言うことを感じさせられた。学ぼうとしている先生方は多い。特別支援教育や理科の指導の在り方についても学びたいという方が多いようだ。特別支援教育に関して言えば、特別支援を要する子がいる普通学級担任の先生方がどのように接していったらよいかという悩みも多いようだ。そのような現場の先生方の様々なニーズに応えるためにもがんばってほしい。

#### 4 「ふくしま教育シンクタンク」について

○ 「ふくしま教育シンクタンク」がこのセンターにあることを初めて聞いた。これまで、現場と大学とがどのようにつながっているかということがあまり見えなかったような気がする。しかし、これからは現場としても大学とどのようにつながっていくかを考えていかなければならないと思った。

○ シンクタンクがあるということ私をはじめて知った。いわき市では市の総合教育センターの指導主事の方たちが自主的に月に1回、土曜日にシンクタンクを活用しての勉強会をしているということだが、指導に当たる先生方が力を高め合い、その先生方に現場の先生たちが指導していただくということはあるがたい。研修している指導主事の方達を通して大学と私たちとがつながっているという感じがした。

○ これからの子どもたちの成長を考えていく時には幼・小・中の連携を強めていくことが大切だということ玉川村では考えている。この幼・小・中連携を校長会でなんとか考え、進めてくれないものかということがあった。そこで「ふくしま教育シンクタンク」があることを知り、教育長が活用したらどうだろうということで大学にお願いをした。

現在、渡辺先生に計画そのものの切り口についていろいろ指導いただいている。また村の方に実際に来ていただいている。今は、推進委員会という具体的な仕事に進み、発達段階に応じためざす子ども像、それを基にしての実践事項についてこれまで5回ほど会議を持ち、道筋が少しずつ見えてきたところだ。私たちが

やっていきたいことが方向的にどうだろうかという不安があったが、専門的な見地からのアドバイスをいただいていることが大変力になり、安心して実践を進めることができる。今後も是非お願いしたいと思っている。

村では、幼・小・中の連携について、推進委員に選ばれた一部の先生だけではなく、実際の推進者となる全教職員に対して示唆をいただきたいと考え、来年、村の教育研究会の総会の席で先生から連携の在り方について講話をいただくことになっている。今後は、学校現場の実践を見ていただいたり、勉強会においていただいたりする機会があればいいと思っている。予算的な面での心配はあるが、村と大学とで折半しながら運営できたらよいて考えている。

○ 大学としては、シンクタンクを共同研究をという立場で考えている。ただ単に一方的に私たちが話をするということではなく、現場の力や子どもたちや先生方の現状を見せていただき、その上で大学側としても勉強をしていきたいと考えている。

大学にいる私たちにとって一番足りないのは現場の先生の姿の把握ということだ。現場と大学とが一緒に研究をし、互いの良いところを出し合うことを大切にしながらこの「ふくしま教育タンク」を現場と大学との共同研究という形で進めていきたい。

○ 大玉村では、第三者評価ということで総合教育研究センターのセンター長さんはじめ先生方にいろいろご指摘をしていただき、評価システムを構築する上で大変助かっている。各学校の校長先生達にとって学校経営を進める上でもそれが大きな力となっている。

上越教育大では、新潟県教育委員会と連携してハートアイシステムというものをつくっている。学校では評価結果をそのまま教育委員会に提出して分析してもらい、それを活用しているようだ。

私たちの現場では、ともするとアンケートの集計等にばかり時間を割かれることが多く、それも多忙化の一因となっているというのが現状だ。そのような中で、慶応大学で簡単に処理ができる学校評価のデータ分析ソフトをつくり公開していることを知った。実際に使ってみると大変便利で、効率的に進めることが出来る。町の教育委員会としてはこのようなものを各学校に紹介していきたいと思っている。それで学校評価は何のための評価なのかというところに視点が当てられ、学校経営の面での改善、授業改善につないでもらえればありがたいと考えている。このようなところにも大学の力を借りることができればよい。

村ではコミュニティースクールづくりに取り組み、幼・小・中教育の一貫性をめざして研究を進めているが、その一つとして大玉村カリキュラムを作ろうとしている。カリキュラムを作成する上でも、本シンク

クとの連携を深め、研究を進めていきたいと考えている。

○ 大学としては、シンクタンクとそれを活用されている所の成果を、そこだけのものとするのではなく広がりを持たせたい。大学と現場とで研究・研修した成果をプログラム化し、それを他に広めていくことも出来るのではないかと考えている。大玉村でコミュニティースクールの研究を進めているが、その中で進めている幼・小・中の連携などもそのプログラムを示し、成果をまとめて情報発信し広めていくことも出来よう。そういう意味での現場と大学との連携が進められればよいなと思っている。

## 5 その他

### 〈教員養成に関して〉

○ 以前と異なり、学校の中での同僚性であるとか、ベテランの先生が若い先生に教えると言うことがだんだん少なくなってきているように思える。よく2年目の先生を見るとその学校の教育力が分かるということを目にする。学校の教育力という言葉が使われるが、今、学校に教育力、中でも若い先生方に対しての教育力というものがあるのだろうかと思分不安になってくる。

たとえば、指導案のことでいえば、若い先生の中には、授業の設計図であるにもかかわらず、なぜこういうものを作らなければならないのだろうかと思っている人もいる。パソコンの技術はすばらしい。どちらかと言えば小手先の効くものについては力もあると思う。

若い先生方には、教育の本質的なものを大学できちんと学んできてほしい。教科で言えば、社会にしても理科にしてもその教科の持つ楽しさに十分浸ってることが出来れば、現場に来て子どもたちにしっかり伝えることが出来るようになる。

私たちが関わろうとして話していく中でも「そんなことは分かっている。」「でも、その先はどうするの…」というような感じを受けることがままある。

○ 大学では学べないことを現場で学べるということがたくさんある。

しかし、今、話があったように、この教科は楽しんだということを先生自身が分かって現場に来ると、そうでないのとでは大きな違いが出てくる。おのずと子どもへの対応の仕方も変わってくるのではない。若い先生方の様子を見ると、ともすると小手先のことは出来るが、実際の所、子どもにとってどう動いていけばよいのかという所になると、そこは弱いように感じられる。

○ 全体的に見て、採用されてまもなくの先生達を見ると、子どもたちとうまく関わることができない先生が増えてきているような気がしてならない。

このことは大学で受ける授業として、講座として成り立っていくものではないのではないかと思います。それはどこでも教えられるものではないことかもしれない。

しかし、子どもたちとの人間関係をうまく作っていくこと。それこそが教師としてのおもしろみの根底だと思ふ。子どもを愛し、一緒になって教育を進めていく。このことは授業以前の問題だ。そこをそれぞれの先生が磨く機会はなかなかないようで残念だ。そのへんをなんとかしてあげなければならない。大学の力を借りられればと思っている。大学、現場、行政とが互いに連携を図りながら考えていかなければならないことだと思ふ。

#### 〈教員免許更新講座に関して〉

- 教員免許更新講座を受講して良かったという声も聞いている。久しぶりに大学に行って話を聞くことが出来たということが大部分だった。聞いた話の内容を同僚などに伝えたかと聞いてみると、他の先生に話していると言うことではないようだ。30時間の講話でこれからの10年間を支えるものになるかというところではないのだろう。形式的なものになっているのではないのかという見方もある。
- いろいろな考えがあるかと思ふが、結果としては良かったと思ふ。この免許更新講座は、福島大学で行っている現職教職員講座の「学び直し」と同じで、教師にとって新しい部分をインプットすることは大切。今、何を大事にしなければならないのかを把握してもらうことが次につながる。
- 免許更新制のこと、これからの教員養成のことなどについては、昨年10月21日に出された「教員免許制等の今後の在り方について」をはじめとした文部科学省の動向を見ているというのが実情だ。

## 6 今後の課題

今回、「現職教職員研修講座等改善会議」がはじめて開かれた。研修に関する学校現場の状況や、本講座の在り方、並びに「ふくしま教育シンクタンク」、教員養成の問題点など、これまでは漠然としかとらえていなかったものが、会議に参加された7名の委員の方々の忌憚のないご意見、ご要望を伺うことにより、少しずつ明らかになってきた。

現場にいる先生達は、自分の授業を何とかしたい、校内研修をより充実したものにしたという願いを持っている。

しかし、校内における教員の年齢構成や多忙化などにより、互いに学び合ったり、気付いたことを伝え合ったりする機会がきわめて少なくなっているようだ。そのために経験年数の少ない先生達は、少しでも子どもたちのために良い授業を展開したいという願いのもとに、ハウツウ的なものを身につけようとして

いる。しかし、経験年数のある方達は、長い教員生活をする上で必要なことは、授業の本質に関わるものとしての教育観や指導観、児童生徒観。それに教科の本質は何かを考えて子どもに接する必要があると考えている。また、子どもの将来を考えた場合、幼・小・中の連続性を考えての教育活動を進めていくことの必要性を感じながらも、それが形式的なものになっていはいないかという不安もある。

このようなことから、「現職教職員研修講座」に期待する部分が大きいに思えた。現場の先生方の悩み等に応える、「学び直し」に応えるためには、教育の本質に関わることや教科の本質に関わること、しかも、常に学ぶ「子ども」のことをその根底に据えての講座を設け、現場の具体的な子どもの姿、先生方の姿を踏まえながらの講座を持つことが大切になってこよう。また、講座数のこと、専門性のこと等を考えれば、これまで以上に、全学体制で受講される方のニーズに応える体制づくりをすると共に、外部講師として、今、実践を重ねている現場の先生方にも協力を仰ぐことが必要になってくる。

「ふくしま教育シンクタンク」については、連携を図って活動をしている部分については評価されているもののシンクタンクの存在が広く理解されていない。予算面のことや、実際の運用面を含めての広報活動を進め、大学と現場との連携を深めていきたい。

大学での教員養成についてのご意見も、教育や教科の本質にかかわることの授業改善や、子どものための教師であることの自覚を深めていくことへつないでいかなければならない。本会議で指摘されたことを謙虚に受け止め、本部門事業の改善に努めていきたい。

#### 〈資料-改善会議日程-〉

##### 福島大学「現職教職員研修講座」等改善会議

主 催	福島大学総合教育研究センター
参 加 者	県内教育関係者及び福島大学関係職員
開催期日	平成22年1月27日(水) 14:00~16:40
会 場	福島大学総合教育研究センター特別教室
《 会 議 》	
1	開 会
2	総合教育研究センター長あいさつ
3	本会委員及び本学関係職員紹介
4	日程説明
5	協 議
	(1) 趣旨及び経過報告
	(2) 本学現職教職員研修講座の現在までの経過と課題について(報告)
	(3) 本学現職教職員研修講座改善について
	① 本年度の実施状況説明
	② 今後の講座内容、方法等の改善について
	(4) 「ふくしま教育シンクタンク」改善について
	(5) その他
6	閉 会